
つくばみらい市立板橋小学校区における意見交換会

《 平成 29 年 1 月 19 日（木）午後 7 時 00 分～ 板橋小学校体育館 》

1. あいさつ

2. これまでの経緯について

3. 『つくばみらい市義務教育施設適正配置基本計画』について

4. 今後の進め方について

《事務局より資料の説明》

5. 質疑・ご意見等

市 民： 富士見ヶ丘の小学校の建設はもう始まっているのか。みらい平の人達を東小学校等に振り分けるという案はなかったのか。

事 務 局： みらい平は人口が急増し、陽光台小学校が 1000 人規模の学校となったということからみらい平地区に 2 校目となる（仮称）富士見ヶ丘小学校の建設を進めている。適正配置審議会でも、みらい平地区に 2 校目を作るのか、周辺の学校を活用して通学してもらうのか審議をした。みらい平のまちづくりとしては、あの地区の中に学校を建設するのが一番大切で、地域のまちづくりをしていく上でも重要な問題であるということ、みらい平にはみらい平の学校を作り、通ってもらうということになっている。

市 民： 学校の名前は変わるのか。

事 務 局： この場でどうなるとは言えない。2 つの小学校が統合する為、それぞれの学校の関係者や PTA の方が検討委員会にて議論をし、新しい学校名にするかどうかを決めることになる。

市 民： 統合後、学区の面積が広がるので東小学校区の子どもにはスクールバスなどの対応があると思うが、学区の見直しを行う可能性はあるか。また、学区が広範囲になると、教職員の方々の家庭訪問も大変だと思うが、そういった児童の登下校や先生方の事務負担についてどう考えているかお聞きしたい。

事務局： まず学区の見直しについて、現段階では可能性はある。我々の考え方としては、東小学校に通っている方々を分散し、片方は谷井田小学校、片方は板橋小学校と考えると荷物的な物であれば単純に分けるのは問題ないが、そもそも、東小学校は児童数が少ないので、複数校に分けると友達関係が不安定になってしまう。東小学校に通っている方々の中で、「私たちは板橋小学校に行くよりも谷井田小のほうが近い」といった場合には、もちろん認めざるを得ない。しかし、行政的に学区を勝手に変えるわけにはいかない。新しいまちづくりでは近所付き合いが重要となってくる。陽光台小学校を建設する際には小張小学校に通ってもらったというように、一時的になら問題はないが、学区を分けて分散させることは難しい。子どもたちの事を考えれば、友達関係が崩れないように学校単位で統合したほうが良いと思う。今後、板橋小学校と交流をしてもらい、行事を一緒にやるなど、互いに意識をしてもらおう。

また、PTAの保護者同士も交流していってもらいたい。ある程度の方向性が決まってきたら色々なことに挑戦しなければならない。教育のレベル、PTAの会費、活動内容などについては、準備委員会の中で決定していく。

市民： 統合を平成31年度から考えているとのことだが、資料2の5ページでは東小学校と板橋小学校別々の人数とクラスが表示されている。統合した場合の人数・クラス数はどのくらいになるのか。教職員は増えないだろうが、クラスに対しての教職員の配置についてもお聞きしたい。

事務局： （資料2の5ページでは）平成31年度の数が362人となっている。我々としては、小学校は1学年につき2クラス以上のほうがいいのではないかと考える。これは国も同じ考え方。東小学校、三島小学校もそうだが児童数があまりにも少なすぎる。先生が一番大変で、子ども達もやりたい授業ができない。

市民： PTA同士のコミュニケーションを取ってほしいと言われたが、つくばみらい市の中で一番初めに統合するスケジュールになっているので、行政の方からアドバイスをいただきたい。

事務局： 我々が責任を持ち、課題を出しながら着地点を見出す話し合いを進めていく予定。

市民： 統廃合による子ども達の不安を払拭したいと考えている。例えば板橋小学校の子どもたちと東小学校の子どもたちの事前交流会、ふれあいの場を作って不安を取り除くことをしていただきたい。そういった予定がないのなら、統廃合のスケジュールの中に交流会を加えることを検討していただきたい。

事務局： 今おっしゃられたことは、重要なことと考えている。他市の事例を参考にしながらやっていきたい。

6. 閉会

事務局： 本日はご出席頂きありがとうございました。それでは以上をもちまして、「つくばみらい市立板橋小学校区における意見交換会」を閉会いたします。

